

海外特別研修 マラウイ滞在記



鉄鋼事業部 技術グループ

前田 権一

ご安全に。私がこの「ソーラーボイラープロジェクト第二弾」に応募したきっかけは、元々アフリカの広大な大地や生活、文化に興味や憧れがあったのと、途上国の現状を自分の目で見て支援活動を体験することで現地の方々やNPO法人の方々から学び、途上国が抱える様々な問題について自分なりの考えを持ちたいと思ったからです。

● 活動内容

主な活動内容はマラウイ北部ムジンバ周辺でのソーラーボイラーの設置と補修、小学校での交流と植木の補助、農村部でのホームステイによる異文化体験と交流、マラウイ南部ブランタイヤでのソーラーボイラー現地生産に向けた調査です。

小学校では、マラウイで流行するコレラを注意喚起する為の劇や歌等を間近で鑑賞させて頂いたり、生徒が主体となった植木の補助を行いました。

ザンビア国境付近のエディンゲニ地域の集落ではホームステイを体験しました。そこでは、束ねた薪や井戸から汲んだ水の運搬方法を教えて頂いたり、マラウイの主食「シマ」と呼ばれるトウモロコシの粉をお湯で練ってお餅のようにしたものの作り方を教えて頂きました。

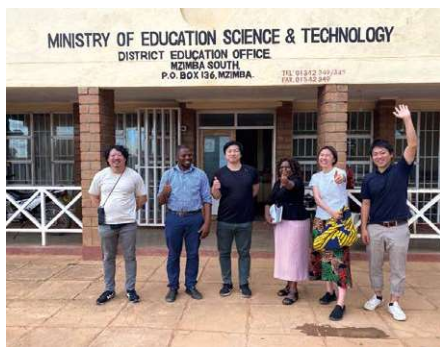
● 活動を通じて

マラウイはThe Warm Heart of Africa（アフリカの温かい心）と呼ばれる国でマラウイの方々は、本当に愛嬌があつて温かい人が多いです。貧しくもたくましく、学校や村を訪れると子供達が元気一杯に出迎えてくれ、別れの

時は何度振り返っても手を振ってくれます。

このプロジェクトが少しずつでもいい方向に広がっていき、安全な水としっかりした栄養、質の高い教育があの子達に行き届くことを願っています。

異文化に触れ、たくさんの方と出会い、様々な体験をし、忘れることの出来ない二週間になりました。この研修で得た経験を職場でも十分に発揮し、何歳になっても素直な心で新しい挑戦を続けていきたいと思えます。



ムジンバ教育庁関係者との会談



デンスバー事業部
西ブロック営業

泉 勇氣

第2回海外研修によるマラウイでの「ソーラーボイラープロジェクト」に参加させていただきました。マラウイの状況については、前回の報告と重複する点が多いため省略致します。

● 主な活動内容

私達は前回同様マラウイ北部のムジンバ県を拠点とし、マニャムラ村に1台、エデンゲニ保健センターに2台、計3台のソーラーボイラーを現地の人達と組み立て、使用方法の説明やデモンストレーションを行いました。さらに、前回設置したソーラーボイラー3台の修繕と補修を行いました。マラウイの保健センターには出産を間近に控えた妊婦が入院しており、入院中は交

代制で遠方まで薪を拾いに行き運搬する必要があります。ソーラーボイラーの設置が保健センターに多い理由は、森林保護や医療品の煮沸消毒等の目的に加え、妊婦の負担軽減といった側面もあります。その他活動としては、農村でのホームステイや小学校での交流を行いました。ホームステイでは水汲み等の現地生活、小学校では植樹ボランティア等を経験させていただきました。後半は、南部にある経済都市ブランタイヤに車で計10時間かけ移動し、現地企業5社に対して現地生産に関する飛び込み調査を行いました。調査の結果、5社中3社で鏡体部以外の土台部や集熱部は製作が可能であると分かりました。

● 研修を終えて

アフリカの現状を肌で感じる事ができ、様々な問題や可能性

を体験として知れた事は非常に良い経験になりました。マラウイの有識者達と話す中で、ただ支援するだけでなくカーボン・クレジット等を用いた相互利益の関係が持続可能な支援に繋がると学びました。マラウイの人々は他人を理解しようとす姿勢や思いやりがあり、人として学ぶところも多くありました。今回の経験を通し、自身の成長に限らず社内外への貢献に繋がればと思います。



ブランタイヤでのヒアリング調査